

伝統工芸

若狭の伝統工芸は、何世代にも渡って受け継がれてきました。和紙やめのう細工、瓦、漆器などです。御食国若狭おばま食文化館では、そういった伝統工芸を体験できる若狭工房を設けています。

若狭塗

若狭塗は日本でよく知られており、赤や黄、緑、金の色合いを持つ独特で華やかな外観が高い評価を得ています。貝殻や卵殻、木の葉などに色漆を重ね塗りし、その後金箔で装飾を施し、さらに漆を塗り重ねます。最後に、基となるデザインと色合いを見せるために磨かれます。その姿は若狭湾の海底によく似た、奥行きと柔らかみのある模様を有しています。若狭塗の起源は慶長年間（1596～1614 年）に国外から入手した漆塗盆を藩主酒井忠勝公に献上したことにあります。この盆からヒントを得た城下の職人が改良工夫を重ねて、若狭塗のスタイルを発展させました。古来、漆器は上流階級のための贅沢品でした。漆塗りの器に料理を盛り付け、漆塗りの箸で食べる様子は独特の美しさと洗練された魅力を与えます。小浜市は日本国内の塗箸生産のトップシェアを占めています。

若狭和紙

和紙作りは、若狭で何世紀にも渡って作られてきた工芸品の一つです。若狭和紙はコウゾの樹皮から出来ています。コウゾは成長が早いので、環境に優しい製品と考えられています。必要な原料は他に、水とトロロアオイの根から抽出される粘液（ネリ）だけです。かつて和紙は帳簿や傘、障子などを作るために日常的に広く使われていました。また、若狭塗にも木の継ぎ目の強度を保つために用いられます。現在では、水彩画や筆記具による制作を趣味で楽しむ人々の間で広く親しまれています。型染めと呼ばれる日本の茶筒によく見られる装飾的な模様の和紙はもともと若狭紙から作られ、京都で印刷されたものです。若狭の和紙は、印刷工程に耐えられるよう特別に設計されており、その耐久性が評価されています。

御食国若狭おばま食文化館では、地域の貴重な歴史的工芸品の保存に取り組んでいます。2 階の工房では、熟達した職人の技を見学したり、隣接するギフトショップで工芸品を購入したりすることができます。また工芸品の製作を体験することもできます。紙漉きや食品サンプル作り、自分の若狭箸を作る箸研ぎなど、たくさんのワークショップから選ぶことができます。あなたが作った工芸品は小浜旅行の大切な思い出の品になるでしょう。